

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

2. 分野別状況 (2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野(4/10)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
岡山型持続可能な社会経済モデル構築総合特区(AAAシティおかやま)(岡山市)	4.0	3.7	3.9	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・介護機器を独自に貸与することで機器の普及や評価を行うモデルを継続していることは評価できる。 ・令和2年度での利用者の状態像改善について評価し、上位事業所に奨励金等のインセンティブを付与した取り組みは興味深い。 ・超高齢社会において持続可能な社会経済モデルの構築を目指す意欲的な取り組みである。評価指標が具体的で実効性があるだけに達成が難しく、評価が厳しくなるが、取組自体を評価すべきと考えた。このような指標は変えずに取組むほうが、評価は低く見えるかもしれないが、実効性のある活動を可能にすると思われ、この形での継続を期待したい。 ・規制の特例措置を活用した取組や地域独自の取組によって、高齢者の在宅生活支援、在宅高齢者のQOL向上、介護従事者の負担軽減をおおむね順調に進めている点が高く評価できる。これらの事業成果間の好循環も期待したい。 ・市民負担の抑制への着目は達成が難しいなかで高い評価に値すると思われる。その一方で、「在宅で安心して過ごすことができる包括ケア」「いつまでも生きがいを持って暮らしていける・・・」などは、数値的な達成度の他に、表題の内容を、どの程度達成しているかについての評価尺度に関する説明が望まれる。具体的には(1)QOLの向上はどのように評価するのか？(2)生きがいの評価はどのようにするのか？などである。いずれも進捗度のみで評価を行うのは非常に難しい課題と思われる。 ・参加事業所間でのノウハウの共有が進むための方法の試行的な取り組みを期待したい。 ・インセンティブ事業に参加する事業所数が伸び悩んでいることについて、要因が何かを分析する必要があるのではないか。地域特性の他にも、評価項目の妥当性、評価後のフォローアップ、インセンティブ導入に対する従事者の反応などが考えられる。